

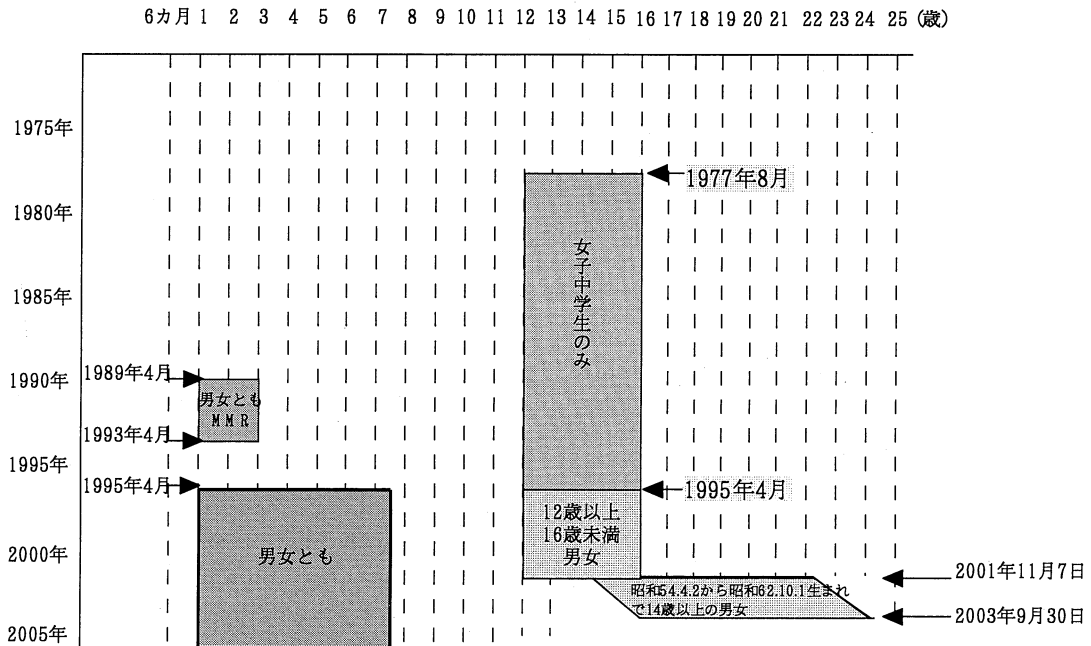
トピックスII

『予防接種法一部改正その2：風疹』

もう一点大きな改正と考えられるのは、風疹の予防接種の経過措置対象者が平成15年9月30日までの間に限りの適用ではあるが、【昭和54年4月2日から昭和62年10月1日生まれの12歳以上16歳未満の者】から【昭和54年4月2日から昭和62年10月1日生まれの14歳以上の者】に変更になったことである。

平成14年4月2日現在においては14歳6カ月～23歳までの男女、平成15年9月30日時点では15歳11カ月～24歳5カ月までの男女が定期接種の経過措置対象者ということになり、年齢幅が大きく増えていることに気づかなければならない。是非この経過措置期間中に風しんワクチン未接種者は接種をすすめておくことが勧められる。この改正内容はインフルエンザの改正内容に比べてあまり広く知られていないため、対象者への周知徹底が望まれる。

風疹ワクチン定期接種の経緯



トピックスIII

『循環しているワクチン由来ポリオウイルスに関連した急性弛緩性麻痺—フィリピン：MMWR 2001年10月12日から抄訳』

—IDWR 2001年第41週（10月8日～10月14日）：通巻第3巻第41号より—

2001年3月15日から7月26日の間に、循環しているワクチン由来のポリオウイルスによる急性弛緩性麻痺患者3例がフィリピンで報告された。1例目はミンダナオ島北部の8歳の小児で、3回の経口ポリオワクチン（OPV）接種を受けていた。麻痺の発症は3月15日であった。2例目はルソン島Laguna州の3歳の小児で、3回のOPV接種を受けていた。髄膜炎症状で7月23日に発症したが、麻痺は呈さなかった。3例目はLaguna州から北に45マイル離れたCavite州の14カ月の小児で、OPV接種を2回受けて

おり、麻痺の発症は7月26日であった。いずれの患者も出生以来、他の地域を旅行したことがない。患者3例から分離されたウイルスの遺伝子解析の結果、このウイルスはSabinワクチン株1型由来のポリオウイルスで、元のSabinワクチン株1型に比べ3%の遺伝子変異が認められた。3件の分離株は同一ではなかったが、非常に類似していた（塩基配列の相同性99%）。フィリピンへの旅行者は、自国の予防接種計画に従い、適切なポリオワクチン接種を受けていることを確認すべきである。

このことを受けて、フィリピン保健省は世界保健機関（WHO）/同西太平洋事務局（WPRO）と協力して補完的予防接種活動、ポリオフリー維持予防接種キャンペーンを実施することとした。WHO/WPROからの派遣要請に基づき、国立感染症研究所 感染症情報センター、FETP-J（Field Epidemiology Training Program Japan）、厚生労働省横浜検疫所

からも2002年3月のポリオNID (National Immunization Day) にあたって、フィリピン保健省、世界保健機関 (WHO)/同西太平洋事務局 (WPRO) に協力して上記活動に従事することとなった。

ポリオ根絶に向けてワクチンを継続していく事の重要性が確認された。一方で、ポリオワクチンを服用した小児の親が麻痺を発症している例がわが国で

も稀ながら報告されている。欧米ではほとんどの国が生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンの定期接種に切り替わっていることから、わが国で開発された不活化ポリオワクチンの製造承認が一日も早くなされ、子ども達に使用することができる日が待たれる。

§ 第6回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ

会 長：堀内 清 (千葉県衛生研究所所長)
会 期：2002年11月30日 (土)・12月1日 (日)
会 場：千葉市文化センター「アートホール」
〒260-0013 千葉市中央区中央2丁目5番
1号
TEL：043-224-8211/FAX：043-224-
8231

プログラム

(暫定的な演題名を一部含む)

1. 特別講演

座長 清水 文七 (日本ポリオ研究所)

「Vero細胞の誕生秘話」 安村 美博

2. 教育講演

座長 富樫 武弘 (市立札幌病院)

「麻疹ウイルスレセプターの発見で麻疹はどう
変わるか？」 柳 雄介 (九州大学大学院)

3. 教育講演

座長 喜田 宏 (北海道大学大学院獣医学研究科)

「最新の動物ワクチンの動向」
上田 進 (日生研)

4. 会長講演

座長 神谷 齊 (国立療養所三重病院)

「弱毒組織培養痘そうワクチンLC16m8株の復活」
堀内 清 (千葉県衛生研究所)

5. シンポジウム

司会 田代 真人 (国立感染症研究所)

「地球に優しいワクチン」

司会 中山 哲夫 (北里学園生命科学研究所)

ポリオIPV 堀江 均 (日本ポリオ研究所)

組織培養日本脳炎

村木 優子 (阪大微生物病研究会)

組織培養インフルエンザ

確認中 (化学及血清療法研究所)

ヒト多価混合ワクチン

高山 直秀 (東京都立駒込病院)

動物多価混合ワクチン

中山 盛正 (微生物化学研究所)

6. ワークショップ

「高齢者に対するインフルエンザワクチン接種
の現状と問題点」 一般公募

§ 2001年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：平成13年10月26日 (金) 17:00~17:45

会 場：熊本ホテルキャッスル「あおい」の間

出 席：相澤主税、浅野喜造、荒川宜親 (推薦理
事)、大谷 明、加藤達夫、清野 宏 (推薦
理事)、田代真人、高見沢昭久、橋爪 壯、
堀内 清、森島恒雄、山西弘一 (理事長代
理) 各理事、植田浩司監事、蟻田 功 (学
術集會会長)

記 録：庵原俊昭 (理事長施設)、中川庸幸 (日本学
会事務センター)

欠 席：磯村思元、岡部信彦、神谷 齊 (理事長)、
倉田 毅各理事、山崎修道監事

報告および審議事項

神谷理事長欠席のため、山西庶務理事が理事長代
理となり理事会を開催する。

1. 一般経過報告について

平成13年に理事会を3回開催したこと、ニュー
スレターを2号発行したこと、平成13年9月30日
現在の会員数が報告された。

2. 理事選挙について

田代理事から、有権者558名、有効投票143票、
無効投票1票 (締め切り日後の投票) の投票があ
り、開票の結果、基礎研究系で加藤茂孝、清野
宏、臨床応用系で武内可尚、富樫武弘、製造・開

発系で岡 徹也、高橋理明、疫学系で廣田良夫の7氏が理事に選出されたことが報告され、理事会で承認された。

3. 平成13年度会計中間報告について
加藤理事から平成13年度会計の中間報告があり、理事会で承認された。
4. 平成14年度予算について
加藤理事から平成14年度予算案についての説明があり、理事会で承認された。
5. 第6回日本ワクチン学会学術集会について
堀内次期学術集会会長から、開催日(2002年11月30日(土)、12月1日(日)の両日)、開催場所(千葉市文化センター)および特別講演、シンポジウム等の学術集会のアウトラインについての報告があった。
6. 第7回日本ワクチン学会学術集会会長候補について
浅野喜造理事が次期会長候補に推薦され、理事

会で承認を受けた。

7. ニュースレター発行について
第4号は第5回学術集会の話題を中心に構成する。
8. その他
 - ① 理事長推薦理事の選挙権について
推薦理事も選挙選出理事と同じ権限を持つことが理事会で承認された。
 - ② 麻疹ワクチン接種率向上の要望書について
理事長からの原案を示し、一部加筆訂正の上理事会で承認を受けた。今後神谷理事長と加藤理事とで要望書を、文部科学省および厚生労働省に提出する予定である。
 - ③ 学会設立日について
第1回学術集会を行った1997年(平成9年)12月25日を設立日することを理事会で確認した。

§ 日本ワクチン学会新理事会議事録

日時：平成13年10月26日(金) 17:45~18:30
会場：熊本ホテルキャッスル「あおい」の間
出席：浅野喜造、岡 徹也、清野 宏、高橋理明、
富樫武弘、橋爪 壯、廣田良夫、堀内 清、
山西弘一(理事長代理)各理事、オブザー
バー：荒川宜親
記録：庵原俊昭(理事長施設)、中川庸幸(日本学
会事務センター)
欠席：岡部信彦、神谷 齊(理事長)、加藤茂孝、
倉田 毅、武内可尚各理事

報告および審議事項

神谷理事長欠席のため、山西庶務理事が理事長代理となり理事会を開催する。

1. 理事選挙について
山西理事から、有権者558名、有効投票143票、無効投票1票(締め切り日後の投票)の投票があり、開票の結果、基礎研究系で加藤茂孝、清野宏、臨床応用系で武内可尚、富樫武弘、製造・開発系で岡 徹也、高橋理明、疫学系で廣田良夫の7氏が理事に選出されたことが報告された。
2. 新理事長(2002~2003年度)の選任について
新理事による選挙が行われ、神谷理事が理事長に選任された。
3. 理事長推薦理事について
山西理事長代理から理事長推薦理事として、荒

川宜親(国立感染症研究所)と喜田 宏(北海道大学獣医学部)の両氏が推薦され、理事会で承認された。

4. 第6回日本ワクチン学会学術集会について
堀内次期学術集会会長から、会期(2002年11月30日(土)、12月1日(日)の両日)、会場(千葉市文化センター)、学術集会の内容等について報告があった。
5. 第7回日本ワクチン学会学術集会会長候補について
2001年度第3回理事会で浅野喜造理事が次期会長候補に推薦されたことが報告された。
6. 各理事の担当および監事について
理事長に一任することを理事会で承認した。
※後日、以下のように分担が決定した。
理事長：神谷 齊
庶務：山西弘一、浅野喜造、富樫武弘、
喜田 宏*
渉外(主として外国との交渉等)
：橋爪 壯、清野 宏
会計(予算案の検討、会員確保)
：堀内 清、加藤茂孝、岡 徹也
編集：岡部信彦、武内可尚、荒川宜親*
広報(主として国内向けの活動)
：倉田 毅、高橋理明、廣田良夫
(下線：2000—2003年度、下線なし：2002—2005

年度、*：理事長推薦理事)
監 事：植田浩司、山崎修道

7. その他

理事長が事情により理事会を欠席した場合は、
庶務理事が理事長業務を代行することが理事会で
承認された。

§ 第5回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成13年10月27日（土）13：00～13：30

会 場：熊本市産業文化会館大ホール

報告および審議事項

神谷理事長欠席のため、山西庶務理事が理事長代理となり、理事長報告事項に関して報告がなされた。

1. 報告事項

1) 物故会員への黙禱

物故会員に対して黙禱を行った。

2) 一般経過報告

山西庶務理事から一般経過報告がなされた。

3) 理事選挙結果について

田代理事から理事選挙結果が報告された。

4) 新理事長（2002—2003年度）について

山西庶務理事から、新理事会で神谷理事が理事長に選出されたことが報告された。

5) 理事長推薦理事について

山西庶務理事から、荒川宜親（国立感染症研究所）、喜田 宏（北海道大学獣医学部）の両氏が理事長推薦理事として新理事会において承認を受けたことが報告された。

2. 議事

1) 平成12年度決算

加藤理事から平成12年度予算の決算が報告され、植田監事から会計監査の結果が報告された。この決算について審議し承認された。

2) 平成14年度予算案

加藤理事から平成14年度予算案が報告され承認された。

3) その他

大谷理事から広く獣医部門にも学会の門戸を開くよう提案があり、山西庶務理事から北海道大学獣医学部の喜田先生に理事長推薦理事をお願いし、獣医部門にも学会活動を拡大していく予定であると解答され、了承された。

3. 第7回学術集会会長の推挙

浅野喜造藤田保健衛生大学小児科教授が理事会で次々期会長の推薦を受けたことが報告され、総会で承認された。

4. 次期会長挨拶

堀内次期学術集会会長から、次回学術集会の日程（2002年11月30日（土）、12月1日（日））、会場（千葉市文化センター）等を含めた挨拶が行われた。

日本ワクチン学会ニュースレター 第4号
2002年4月1日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒514-0125 三重県津市大里窪田町 357 番地
国立療養所三重病院
日本ワクチン学会理事長 神谷 齊
学会事務局 庵原俊昭
TEL：059-232-2531/FAX：059-232-2950
<入退会・住所変更・年会費>
〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
財団法人 日本学会事務センター 日本ワクチン学会会員係
TEL：03-5814-5810/FAX：03-5814-5825
